

横浜市立大学学術情報センター

貴重書 月替わり展覧会リーフレット (149)

2024年2月の作品は

外藩旗譜
—日の丸の起源—

展示テーマ

～意外と知らない日本の象徴「日の丸」～

国家の象徴である国旗は、世界各国様々なデザインがあり、その一つ一つに独立や闘争の歴史が見て取れる。模様や色には視覚から得られる以上の深い意味が込められており、国民にとっても大きな存在となっている。

その中でも私は自分が生まれ育った国である日本の国旗に興味を持った。日本の国旗はヨーロッパや中南米の国と比較してもとてもシンプルである。イギリスのユニオンジャックやアメリカの星条旗などは派手な色使いやデザインで、そこに込められた意味もよく知られている。しかし、日本の国旗「日の丸」は白地に赤い丸という非常に単純なデザインで、見た目だけではどのような意味が込められているのか読み取ることは難しい。

そこで、外交に使われていた様々な国家の船旗が記録された『新訂外藩旗譜』をきっかけとし、古くから変わらない日の丸がどのような意味を持つのか、いつから国旗として使われていたのかを調査していく。



『新訂外藩旗譜』(1冊)

江戸時代、
弘化3年序(1846)
作者：夢霞山人 識
縦26cm×横18cm



この冊子は、外交の時に使われていた船に掲げられていた旗や宗教旗などが記録されている。どの図も色鮮やかに描かれ、昔使われていた旗について詳しく知ることができる。

現在の国旗とあまり変わらないものもあるが、よくわからない動物が描かれていたり、おじさんの顔をした天使が描かれていたりなど、多種多様な旗を見ることができる。当時はどの船がどの国から来たものなのかを識別する目的で作成されたと考えられる。ブラジルやコロンビアは現在の国旗に近い色、模様をしていることがわかる。

また、絵だけでなく、国名に注目して楽しむこともできる。ブラジルが「ブラシル」、チリが「シリ」、ペルーが「ペーリュ」と表記されているなど、国名も現在と少し異なっている。これは実際に現在と当時では国名が違うのか、それとも日本人の耳にはそう聞こえていたのか、どちらなのだろうか。昔の国名から現在のどの国のことを指しているのか考察するのも一つの楽しみ方である。

展示のみどころ

一日の丸が表すものの変遷

日の丸はどのようにして広まり、現在まで受け継がれてきたのだろうか。

武士たちの間に日の丸が浸透していった説として、源平合戦で勝利した源氏が白地に赤の日の丸を用いていたことから、他の武士たちにも用いられるようになったというものがある。また、この後から日の丸は“統一”や“まとまり”といったものを表すものになったのではないだろうか。というも、連合軍で戦う際に日の丸の旗を掲げる例が見られたからである。信長や家康はそれぞれ自分の旗印（信長は「永楽通宝」を図案化したもの、家康は「家紋」と「厭離穢土欣求浄土」）を持っていたが、連合軍として戦った長篠の戦では日の丸を掲げている。対する武田軍も日の丸を掲げていた。源氏以降、武士たちは天下統一がかかったような大きな戦いにおいて、日の丸を掲げるようになった。



「長篠合戦図屏風」
両軍とも日の丸を
掲げることが
わかる

※徳川美術館. <https://www.tokugawa-art-museum.jp/exhibits/planned/2023/0723/post-01/>
(閲覧日 2022年7月14日)

そして徐々に日の丸は武士たちのものから、国を表すものに変化していく。16世紀から17世紀にかけて、他国との貿易を行う船の船印として用いられるようになったのだ。朱印船貿易や勘合貿易の際に日本籍の船であることを他国に認識させるために日の丸旗が用いられ、現在の国旗に近い形で日の丸が使われていたことがわかる。また江戸時代になると天皇や公家、将軍が乗るために作られた御座船にも日の丸が掲げられている。

徐々に日本という国を表すものになっていった日の丸だが、正式に国旗として制定されたのは意外にも最近のことである。1999年に「国旗及び国歌に関する法律」が施行され、日の丸が国旗に制定された。それと同時にデザインも若干の変更が施された。旧日の丸は「縦横比が7:10」で「丸の位置は、旗の竿側の方へ横の長さ100分の1近づけた点が中心」とされていたが、この法律の制定に伴い、「縦横比が2:3」「丸の位置は旗の真中」に変更された。

しかし、この法律制定以前に日の丸は日本国民に広く国旗として認識、使用されていたため、改めて日の丸の立ち位置を明確にするための形式的な物であろう。ここまで述べてきたように、日の丸のシンプルなデザインの中には、武士たちの統一にかける思いや、様々な歴史が見て取れることが分かった。このリーフレットを読んで私のように日の丸に興味を持ってくれる人がいたら嬉しい。

<参考文献>

- ・国旗及び国歌に関する法律. https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=411AC0000000127_20150801_0000000000000000 (閲覧日 2022年7月14日)
- ・沖田純一郎「国旗「日の丸」のルーツは「種子島の船幟」」<https://www.city.nishinoomote.lg.jp/admin/soshiki/kyoukuiinkai/shakaikyouikuka/bunkazai/bunkazai/siseki/3085.html> (閲覧日 2022年7月14日)
- ・刀剣ワールド「戦国武将の旗印・馬印(馬標)」<https://www.touken-world.jp/tips/43247/> (閲覧日 2022年7月14日)

あとがき ～貴重資料に触れて～

歴史資料や貴重書というと、崩し字や漢文など、読みづらくてとっつきにくいイメージがありましたが、今回扱った外幡旗譜のような、絵がメインのものもあり、新しい発見ができました。高校の授業レベルの日本史知識しかない私が日の丸のルーツをまとめられるのかとても不安でしたが、なんとか形にすることができてよかったです。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、
展示品を除き申請が必要です。また利用は
学術研究目的に限らせていただいております。
※過去の展示はオンラインでも公開中です！



令和6年2月1日発行
令和元年度 日本文化論A 受講生 編集
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学 学術情報センター

第150回展示は令和6年3月上旬からを予定しています。